

湖風会報

滋賀県立大学統合同窓会報 第二号

2500

2009年12月1日発行
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学交流センター内
湖風会
Tel:0749-28-4400
Fax:0749-28-4400
s.kendai4400@kofuukai.jp
発行責任者 種橋清一

湖風会会長挨拶

会長 種橋 清一

湖風会の、会員の皆様には、いよいよ御健勝で御活躍のことと、心からお喜び申し上げます。

本会も会員の皆さん方の御力添えによりまして、充実の一途をたどり、運営も軌道に乗りつつあり、厚くお礼申し上げます。

本年の通常総会も、去る7月25日、母校にて開催致しました結果、各議案も皆さんの慎重審議の上無事御承認頂き、全役員が再任されました。当日出席頂いた代議員の皆様には、ここに改めて感謝を申し上げます。

来年度からは5単位同窓会が保有する資産を一本化し、実質一体化した組織となりますが、更なる充実に向け新役員一丸となって尽力する所存でございます。

尚、当日来賓として、母校から、大田副学長様、並びに杉野統括様には、御多用の中をまげて御臨席を賜り、御丁寧な談話を頂き、総会に一段の光彩をお添え下さいました事、会員一同此の上もない喜びでございました。

母校の近況につきましては、今年に入って電子工学システム科の学会が、体育館と工学部棟の間に完成し、これで全学会が広いキャンパス内に様相も新たに、完備を見るに至りました。

申す迄もなく、本学が湖国唯一の技術関係者を育てる殿堂です。それに相応しい誇り高い伝統を構築され、より多くの優秀な学生の皆さんを育てて頂くことを、衷心

よりお願い致します。

また会員の皆様には、折に触れ是非お立ち寄り下さるようお願い致します。

終わりになりましたが、ここに母校のいやさかと会員の方々の御健勝と御多幸を御祈念して、ごあいさつと致します。



滋賀県立大学学長挨拶

学長 曾我 直弘

9月に滋賀大学の創立60周年式典に招かれた時に、本学でも前身である県立短期大学の設置から数えると来年は60年になることを思い浮かべた。今や、大学進学率は50%を越え、希望すればどこかの大学に入る時代となり、四卒と短大を見る世間の目は違ってきている。しかし、当時は大学進学率が10%程度で、短大を入れても高等教育を受ける者は15%以下であったことを考えると、学生のレベルは今の状況とは全く違ったものであったといえよう。さらに、人があまり移動しなかったこともあって、滋賀県でも短大生の多くは地域内に就職し、その発展に大きく貢献してきた。「地域に根ざし、学び、貢献する」ことを掲げる本学として、前身の短期大学の全ての同窓会を含めた湖風会が誕生し、活動し始めていることを嬉しく思っている。

最近の大学教育において、学生の質保障、特に社会に出るまでに習得しておくべき能力が話題となっている。これを文部科学省では「学力」、経済産業省では「社会人基礎力」、また厚生労働省では「若年者就

職基礎能力」と呼んでいるが、いずれも大

学では学術や技術を習得するのみならず、

社会の一員として必要な能力を培っておくことを求めている。本学では地域と連携した近江楽座のような学生の課外活動やインターンシップを行っているが、社会性を学生に持たせるには社会で活躍している人々との懇談や企業での就業体験の機会を増やす必要がある。そのために短期大学時代の2万人を超える卒業生は心強い存在である。学閥が問題視されることもあるが、先輩・後輩の良き関係は大学の発展につながるものである。これを推進するために、湖風会の会員がいつでも来学し、先輩と交流できる同窓会館の建設を計画している。これは本学の前身である短期大学も含めた県

の高等教育機関の設置60周年記念ともいえるものであることから、

県の理解を得ることも含め同窓会の支援を期待している。



通常総会報告

平成21年度「湖風会」通常総会結果

平成21年度通常総会が、開催されました。

総会結果の概要は以下のとおりです。

日時 平成21年7月25日 13時

場所 滋賀県立大学 交流センター内研修室

出席者 会員73名、委任状321名、計394名

来賓 県立大学 理事・副学長 大田啓一様

県立大学 学生就職支援G統括 杉野和彦様

司会 藤本健一氏
議長 岡田定一氏
議案審議
1号議案 平成19・20年度 事業報告
2号議案 平成19・20年度 収支決算報告、並びに監査報告
3号議案 役員改選
4号議案 平成21年度 事業計画
5号議案 平成21年度 収支計画
種橋清一会長の挨拶と、大田副学長からの祝辞を頂いた後、議案審議に入りました。各議案については、担当役員から提案説明の後、夫々拍手により承認されました。また総会終了後、看護学部棟食堂にて懇親会も行われました。

事業報告

○19・20年度 事業報告

5単位同窓会が統合、誕生した「湖風会」です。まず当初は、お互いに異なった環境に育った者同士ですから、同窓会間の利害関係を越えた議論の場で検討できるようになるまで、多少の時間が掛かりました。事業計画を推進する活動委員会は、名簿管理・広報HP・会報・総務・就職支援の各委員会ともに、種々計画を進め今期から「総務」「名簿管理」「広報」「事業支援」に集約のうえ活動を拡大して行くことになりました。

事業報告書にある中でこの2カ年間、特に計画の進行実施ができた主なものは、①同窓会運営財務計画において、運営収入財源の確保

基本財源として、大学新入学生に納付し

ていたたく終身会費を、平成19年度から「湖風会」の財政に繰り入れることになりました。

②同窓会 下部組織の活動の輪の広がりに 各既存組織には支部活動もあり、学科単位同窓会もあります。同窓会活動のポイントは会員間の親睦・交流から始まります。特に機械科同窓会「彦機会」の活動は湖風会のこれからのモデルであると評価できる活動であると思います。

湖風会の今後の組織運営は、単位同窓会だけのものから、各地域支部エリアを中心とする単位の活動へ移行し、既存の単位組織はその支部組織内における「部会活動」となっていくことが、理想の姿であろうとの意見が多く伺われます。

③各委員会における活動 会員のご協力によって、「名簿管理」が大いに進捗いたしました。「運営プロジェクト」委員会によって「湖風会」の今後の取組みのポイントが明確化されてきました。④大学当局の方々と湖風会同窓会の意思疎通など、まだ未消化の課題もありますが、前向きな活動を進めることができましたことを総括として報告いたします。

事業計画

①統合組織及び下部組織の運営活動促進

・役員会、委員会の活動計画の推進

・湖風会ホームページの正式開設による会員との情報交流促進

・「湖風会」施設棟の設置検討

・県立大学当局、並びに後援会との交流

②財務計画、運営について

図1 湖風会会計報告

平成19・20年度収支決算			平成21年度収支予算		
(単位:円)			(単位:円)		
収入科目	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	収入科目	平成21年度 予算額	
会費収入	4,580,000	5,610,000	会費収入	6,000,000	
雑収入	17,367	14,203	雑収入	6,000	
収入の部 小計	4,597,367	5,624,203	収入の部 小計	6,006,000	
前年度繰越金	469,705	1,278,368	前年度繰越金	4,956,475	
収入の部 合計	5,067,072	6,902,571	収入の部 合計	10,962,475	
支出の部			支出の部		
(単位:円)			(単位:円)		
支出科目	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	支出科目	平成21年度 予算額	
一般経費	1,116,681	939,493	一般経費	1,110,000	
設備費	168,052	0	設備費	800,000	
事務管理費	877,859	946,603	事務管理費	1,010,000	
委員会活動費	1,613,154	33,300	委員会活動費	2,090,000	
その他	12,958	26,700	その他	340,000	
支出の部 小計	3,788,704	1,946,096	支出の部 小計	5,350,000	
次年度繰越金	1,278,368	4,956,475	次年度繰越金	5,612,475	
支出の部 合計	5,067,072	6,902,571	支出の部 合計	10,962,475	

図2 平成21年度 改選役員 就任者

所属単位同窓会	役員名(卒業年)				◎会長	○副会長
工業部	◎種橋 清一(S28)	○平田 達男(S38)	松下 欣市(S39)	大森 哲夫(S41)		
	日置 靖男(S42)	藤田 守(S42)	田中他喜男(S45)			
農業部	中村 久郎(S29)	松林 憲一(S33)	藤本 健一(S33)	○岡田 定一(S34)		
芹翠会(家政部)	阿閉 良衛(S27)	伊藤 幸(S27)	○大辻 房枝(S28)	藤澤 史子(S39)		
	道明 美保子(S44)					
湖畔の会(看護部)	○中川 富美江(S48)	安寺 久美子(S49)	横田 峰子(S50)	五坪 千恵子(S53)		
県大同窓会	金尾 滋史(H14)	○小林 匡哉(H17)	寺方 美希(H20)	丸山 麻美(H21)		
	翠 勇樹(H21)	堀内 理絵子(H21)				
監事	小澤 重男(S33)	安部 八重子(S43)				
	(事務局員 竹内 順子)					



総会集合写真と懇親会の様子

図3 平成20年度卒業・終了者の就職状況

学部・研究科	平成21年5月1日現在		
	希望者	内定者	内定率
環境科学部	125	122	97.6%
工学部	72	72	100.0%
人間文化学部	134	127	94.8%
人間看護学部	71	71	100.0%
合計	402	392	97.5%
環境科学研究科博士前期課程	29	26	89.7%
工学研究科博士前期課程	48	48	100.0%
人間文化科学研究科博士前期課程	13	11	84.6%
人間看護学研究科人間看護学専攻	1	1	100.0%
合計	91	86	94.5%
環境科学研究科博士後期課程	1	1	100.0%
工学研究科博士後期課程	0	0	—
人間文化科学研究科博士後期課程	1	1	100.0%
合計	2	2	100.0%

学生の3分の1が県内者、3分の2が県外者、それに東南アジアを中心に海外からの留学生も増え続けており、在学生の宿舎・下宿問題があります。また、先生方や学生と我われ先輩達が交流・親睦をすすめる場としての「交流会館」が在りません。

委員会は、卒業生の動向や卒業予定者の希望など大学当局(学生課)から情報を得て、役員会に詳しく報告し、役員間における現状認識を計ってきましたが、本格的な支援活動には至っていません。

この東海支部総会の前身は、建築26年卒の先輩方を中心となり開催されていましたが、昭和36年頃から全体の会となり、成人の日の前日(1月14日)が開催日として、毎年、一年も休むことなく開催されてきました。国民の休日に変更になって、成人の日が、1月の第2月曜日に変わり、開催日が日曜日となってしまうことで10年前から建国記念日の前日を開催日として現在に続いております。

同門の気の置けない仲間が年に一度集まり、食事をしながら近況報告や相談事、思い出話など話題に事欠かず、二時間ほどの会ですが本心に短く感じられる一時です。

以前から、農業部卒の方も何人か参加されていましたが、数年前からは新大の卒業生も加わり、湖風会の発足と共に参加者も少しずつ変化をしながら開催されています。これからは毎年開催されますので、支部会員の方はお誘いあわせてご参加下さい。(昭39卒 佐藤東雄男 記)



以前から、農業部卒の方も何人か参加されていましたが、数年前からは新大の卒業生も加わり、湖風会の発足と共に参加者も少しずつ変化をしながら開催されています。これからは毎年開催されますので、支部会員の方はお誘いあわせてご参加下さい。(昭39卒 佐藤東雄男 記)

・財務施行 完全一本化のH22年度実施
・総括予算、並びに 個別活動予算の実
・実施の策定施行
・その他

委員会の活動報告
広報委員会
○ホームページ開設のご案内
<http://kofukai-usp.jp/>
統合同窓会「湖風会」発足時より、広報活動委員会においては会員皆様への情報発信手段として「会報」と「ホームページ」の運用を二本柱に始めて参りました。
この度遅れておりました「ホームページ」の開設準備が始まり、公開目標時期を平成二十二年四月一日に決定しました。時期は未だ少し先になりますが、今回の「会報」発行にあわせのURL(上記)を告知して、

名簿管理委員会
各単位同窓会の名簿情報を統合し、湖風会一元管理するために、名簿委員会として最大の資産であると同時に守らねばならない個人情報です。個人情報については、平成15年に個人情報の保護に関する法律が制定されました。同法律が制定される以前

湖風会では、このような状況にあわせて名簿管理方法として、県立大学同窓会が行っていた方法を採用することにしました。具体的には、名簿管理規程により名簿の取り扱い及び法律の義務への対応を明文化するとともに、独自のプログラムを用いた名簿管理ソフトの採用により情報漏えいを防ぐものです。現在、各単位同窓会の名簿情報をこの名簿管理方法へ順次移行しているところとす。

このような名簿管理方法とは別の課題として、名簿情報の更新が出来ていないとい

では、同窓生との親睦を深めるために会員名簿の発行が行われ、その管理は主に名簿を受け取った会員に任されていたが、現在では、名簿管理者すなわち同窓会の事務方に個人情報の適正管理・適正利用等の義務が課されています。

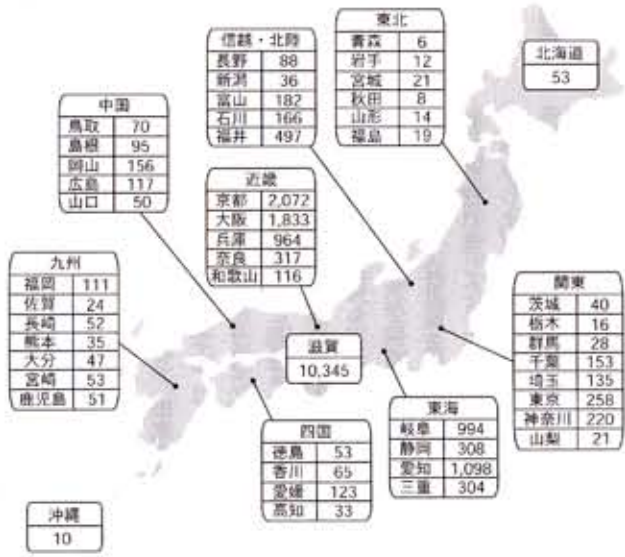
同窓生の活動
湖風会・彦根工業会東海支部総会が、今年も2月10日に名古屋駅南口近くの会場で開催されました。恒例により「湖風会」本部から、種橋会長にもご参加いただき、会員25名の出席を得て、にぎやかに開催することができました。今年の総会は支部役員の改選を行い、支部長を、日置靖男さんにバトンタッチして、新しい体制でのスタートの年となりました。

この東海支部総会の前身は、建築26年卒の先輩方を中心となり開催されていましたが、昭和36年頃から全体の会となり、成人の日の前日(1月14日)が開催日として、毎年、一年も休むことなく開催されてきました。国民の休日に変更になって、成人の日が、1月の第2月曜日に変わり、開催日が日曜日となってしまうことで10年前から建国記念日の前日を開催日として現在に続いております。

図4 同窓生の住所分布状況 (単位:人)

	工業	農業	芹翠会	湖畔の会	県大	合計
北海道	8	12	10	2	21	53
東北	13	13	11	2	41	80
関東	203	83	457	43	85	871
信越・北陸	243	138	314	60	214	969
東海	741	282	671	124	886	2704
近畿(滋賀は除)	965	700	1,160	192	2,285	5,302
滋賀	2,180	2,143	3,888	603	1,731	10,345
中国	101	88	126	31	142	488
四国	47	34	89	14	90	274
九州・沖縄	103	72	104	15	89	383
合計	4,604	3,565	6,630	1,086	5,584	21,469

※県大同窓生の数字は入学時のもの(現県大卒業生はH17年入学まで)



彦根工業会滋賀支部
本会を去る11月7日(土) 11時半から、彦根駅前彦根アルプラザ内の「県立大学サテライトプラザ彦根」にて開催いたしました。



今回は、統合同窓会発足以来初めての為、総会、懇親会、そして大学湖風祭の見学と、盛り沢山のメニューでした。

まず、総会においては大学同窓会代表の小林様から挨拶を頂いたのち、協議事項に入り、活発な意見交換と役員改選が行われました。その後、松下新支部長から、会員の親睦を第一目標に掲げ「つどい」の機会を提案する考えと、彦根工業会滋賀支部から湖風会滋賀支部へ移行するための準備委員会の設置等の活動方針が示されました。次に、懇親会には大田副学長のご参加と祝辞を頂き、種橋前支部長の乾

杯音頭にて歓談が始まりました。最後に大学に移動し、湖風祭を見学し、後輩大学生諸君に接し、広大なキャンパスを散策しました。

久しい同窓会の方々と、清々しい晴天のもと忙しくも楽しく和やかな一日でした。(昭40卒 松下恭明 記)

彦根会
設立当初(H10年)の主要な活動は、機械科卒業生会員相互の親睦と情報交換が主体で、その後順次活動の内容が拡がり今日に至っています。しかしながら、我々の活動は限られており同窓会活動の緒に就いたばかりであります。

現在、定例的活動は概ね下記の通りです。

① 幹事定例会開催
2ヶ月毎に会長、副会長、常任幹事、顧問が出席し、彦根会で行う諸行事、新たに取組む懸案に付き検討方針を決め、湖風会、彦根工業会の活動状況等情報の共有をはかる。

② 会社訪問

毎年度1、2回卒業生が活躍する企業、またその紹介を得て訪問、彦根会の先輩、後輩も交え、会社幹部との懇談、交流を図っている。

H20年度：極東開発工業、Eデイヘンス
H21年度：藤井合金製作所、京都製作所を訪問、今年度は彦根会会員、県立大学就職担当の先生、湖風会メンバーの参加を得て、より有意義な交流の機会を持つ事となった。

③ 同好会活動
ゴルフ、写真、カラオケ、テニス、ウォーキング&小旅行等の同好会が有り、それぞれ活発で、ユニーク活動を、それぞれ年1、2回開催し親睦を深めている。

中でも彦根会以外の仲間(建築、化学、農業、家政、看護、県大)と一体となり活動しているテニスや家族参加のウォーキング&小旅行は回を重ねる毎に、参加者が増加している。

④ HPの拡充
彦根会活動及び、関連する団体の動向を独自開発のHPとして公開、活動実態の共有化、関連情報の受信機能のさらなる拡充を目指している。

我々「彦根会」は、今後も地道な活動を通して尚、一層の会員相互及び関連団体等との連携、交流を目指し「同窓会活動」のさらなる進展を願っています。(昭35卒 内片武治 記)

芹翠会
平成18年11月11日(土)に滋賀県立大学と県立短大の各部同窓会が統合して、「湖風会」としての第1回総会が開催されたことについてはすでに皆様にお知らせしてありますので周知のことと思います。その折、ご出席くださった122名の芹翠会の方を代議員とし、本年(平成21年)7月25日に開催された、第2回総会のご案内を差し上げ

たところ、役員4名を含み、16名が出席くださいました。

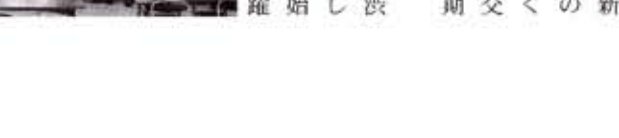
湖風会として統合されたものの、当分の間、まだ各部同窓会の活動は存続されるので、芹翠会として、今後どのように湖風会の運営方針にかかわっていくか、また活動していくかなどについて、第2回総会出席の16名の方と、9月12日に話し合いを持ち、更に、12月12日にも再度話し合いを持つことになっています。(昭28卒 大辻房枝 記)

去る7月5日に全国から集まった同窓生50名あまりではありましたが、最終となる総会・同窓会を開催いたしました。総会では湖風会への移行に関する説明、記念講演では短期大学時代から県立大学まですべてにかかわってくださった筒井裕子先生に「短期大学・助手時代の思い出と看護について」と題して先生が看護にかけてこられた意気込みと走馬灯のようにめぐる思い出を話してくださいました。同窓会では久しぶりに出会った友とすぐに学生時代に戻り思い出話に花が咲きました。寂しかったことは学び舎が跡形もなく彦根市立病院として生まれ変わっていた事です。関係のある建物として生まれ変わっていた事に安堵し、後輩達の学び舎(県大)を訪れ歴史の変遷を感じました。しかし、私たち看護部は唯一短期大学から県大短期大学部さらに人間看護学部へと途切れることなく歴史が続いてきた学部であり、同窓の皆さんは誇りを持ってこれからも前進していただきたいと思っております。湖畔の会同窓生の思いを今後の湖風会の活動に反映していきたいと思っております。(昭48卒 中川富美江 記)

2008年11月 最終総会(拡大委員会) 草津・福複センター
当日は、隣接する旧農業部構内を、一時開門、参加者は旧学舎を懐かしんだ。

農業部同窓会は、この総会で組織統合と会計一本化のすべての手続きを終えた。卒業生にとって、学び舎の閉鎖や解体は「故郷を失う」心境で寂しい限りです。新しい母校の県立大で多くの人材が私たちの仲間として育っていることは、たのもしく且つ、嬉しいことで、キャンパス内に、交流の場として「湖風会館」の早期開設が期待される。

農業短大は、1950年5月草津市・渋川に建てられた。いま渋川町では変貌著しい街の姿を絵巻物として記録する作業が始められ、地方の卒業生が中心になって活躍中。農試あり、短大あり、競馬場あり、どんな風に描かれるか楽しみである。その調査の中で忘れられた学生寮(散風寮)の寮歌が見つかったそうである。(昭29卒 中村久郎 記)



農業部福井支部
2008年11月29日、農業部最終総会を終え、母校跡地を一周して本館時計台とコスモスを背にした碑文を見るに、「この地を学舎として、46年間学生・教職員約4千名が教育・研究にいそしみ、農業および地域文化の振興と発展に寄与した。滋賀県立短期大学農業部の業績は滋賀県立大学に継承され発展される。以下云々、平成8年4月 滋賀県」とある。

わが福井県支部同窓会は、第4〜7回卒業生が主力となって、昭和46年(1971)1月9日創立した。時折々に恩師の学会出張や特別招聘もまじえながら、ミニ講義と

懇親会を、温故知新を重ねてきた。

今回の同窓会移行統合については、小冊子をもって福井県主力朋友には既報済みだが、これを契機に、同窓の「志」忘れることなくさらに新たな「湖風会・福井支部」として組織改編躍進に向けた、母校方面での遠征同窓会を、明年度中にとくろんでいる。(昭31卒 土井内敬治 記)

テニスの集い

平成6年に第一回ソフトテニスOB会としてスタートし、平成19年の第4回から県大ソフトテニス同好会が加入、そして今回から県大硬式テニスのメンバー15名が加わり10月24日県大テニスコートで「第6回湖風会テニスの集い」が開催されました。3年目を迎える県大ソフトテニスの男女7名含めて総勢40名の参加で楽しく有意義な集いとなりました。特に今年の硬式テニスの加入は、偏に大田副学長・里深学長顧問及び県大体育会会長の中川、邊見両君のお力添えがあったからだと感謝致しております。各学部間の壁、またOBと現役の壁、ソフトと硬式の壁もない、テニスを愛する全ての人々が一堂に会して交流を深め合うことを目指した楽しい集いとなりました。

今回の「集い」は名実共に、近い将来「湖風会のクラブ活動」のあるべき姿を見据え、その基盤が出来つつある記念すべき集いであったと思います。今後持続的発展を期すために皆様のご支援とご提案をお願い申し上げます。(元農業部教員 山本敬治 記)



県大同窓会

県立大学同窓会は、現在、大学院生15名、社会人2名の役員を中心に活動を行なつて

います。主に、名簿管理、会報発行、HP管理、渉外活動等に加え、今年の5月31日には第6回総会を開催致しました。歴史も浅いせい、同窓会がなかなか浸透していかないといった面もあり、出席者はまばらとなりました。湖風会としてのまとまりが強くなってきました。今日この頃であります。先輩方の活動に刺激を受けながら、県立大学卒業生の同窓会活動への積極的な参加を進めばと期待しております。

この度の県立大学同窓会総会についてありますが、会計監査が一部間に合わず、報告が遅れましたことをこの場をもってお詫び申し上げます。会計報告につきましては県大同窓会HPにて報告しますので、そちらをご参照お願い致します。(平20卒 寺方美希 記)

県大トピックス

ホームカミングデー構想

教育担当理事 大田 啓一

私はかつて海洋観測を頻繁にしていた。沿岸海洋の観測は数日だが、外洋の観測となると一ヶ月や二ヶ月の航海は珍しくない。この間、乗り合わせた各大学の先生や院生は居住を共にして共同作業をする。院生の口には戸を立てられないから、大学のお家事情は筒抜けで、その中には大学や街への不満も含まれる。だが北大の院生からはこれ聞いたことがない。彼らは北大が誇りで、よく研究し、後輩の面倒もよく見る。感心したものであった。

本学についても、在学生や卒業生が誇れるに足る存在でなければならぬと思う。大学は組織を挙げてそのための努力をしなければならぬ。また卒業生には常に今の本学を見ていただきたい。会報や各種報道を通してだけでなく、じかに見て欲しいのである。そのうえで大学や学生のあり方に助言いただければなお有難いのである。

ホームカミングデーをそのために創設することを、今大学として計画している。

秋のある週末の一日、卒業生には本学にお帰りいただき、大学を見て、在学中の後輩に語りかけ、あるいは後輩の相談にのっていただきたい。

本学の就職委員会では、今、学生のキャリア形成支援教育をいかに推進するかを検討している。キャリア形成は、労働を介しての生涯的な社会参画の仕方を考え、必要な能力を自分自身で身につけていく過程を指すのだが、これを大学として支援しようというのである。

学生にとって初めての本格的な社会参画は「就職」であり、そのために「就活」する。腹を据えてこれに取り組むには、社会で働くとはどんなことかを心得ておく必要がある、この点について同窓生のお力添えをいただければ大変有難いことである。本学としては、ホームカミングデーがその機会として活用されるよう心を配っていきたくと考えている。



県大ニュース

○nakanawa + terrace

食堂の混雑解消や中庭の有効活用を目指す、nakanawa + terraceプロジェクトは始動しました。中庭と食堂をテラスでつなぐことによりそれらを可能にし、多目的に利用できる空間になっています。デザイン・設計だけでなく、展示計画等のプロモーション活動、グッドデザインエキスポへの出展には研究室の学生が積極的に参加しました。また、社会領域、公共・文化関連施設として2009年グッドデザイン賞を受賞し、次の様に評価を頂きました。

《学生との協働、県産材の利用、パーツのユニット化、簡素な造形が好ましい。学生の多



様な利用に加え、地域に開かれた大学として周辺住民の利用にも寄与できるのではなかろうか。》

今後、学生の利用だけでなく、地域に開かれた空間として広げていけたらと思います。(平21卒 林宏美 記)

○荒神山ロックフェス2009

8月22・23日に滋賀県立大学センター広場において荒神山ロックフェス2009が開催されました。当日は学生をはじめ多数の観客が来場し大いに盛り上がりました。遠くは東京からアーティストを迎え、オリジナルジャンルのロックフェスとなりました。多くの皆さんに支えられ今年の荒神山ロックフェスは大成功となりました。荒神山ロックフェスは進化し続けます。是非今後にご期待ください。(荒神山ロックフェス実行委員 野中智尋 記)



○体育館の遮光

私達「体育会」とは、体育会系部活の代表から構成され、21団体が加盟している組織です。今年度の活動として、体育館改修工事の一部を実現しました。体育館は、全面ガラス張り非常に眩しいことが部活動を行うにあたって問題でした。現在、全面遮光を実現するため、活動を継続しています。OB・OGの方々に体育会の活動を知って頂きたいと思

い、今回文章を載せて頂きました。今後とも滋賀県立大学体育会をよろしくお願



もう一つの県大レポート

県大と短大の同窓会が統合して、ようやく県大キャンパスガイドの見開きに沿革が載せられ、広報誌「県大」第34号(2009年4月)は、県大のルーツを探ると県大の生い立ちを特集した。

短大の4年制志向は、早くから芽生えたが、短大の改組転換による4年制大学の開学(1995)までの道のりは長かった。その紆余曲折は元県大事務局長堀江氏の「局長の卒論」に詳しく記されている。

さて4年制県立大学設置への原点は、様々な見方があるが、農業部OBたちの熱意溢れる署名運動があったことを記憶すべきであろう。

清新、希望に満ちて発足した県立農業短大(3年制)は、開学5年目に突如、廃学問題が起こった。関係者は即反対に立ち上がったが、続いて「廃止でなく、短大の4年制昇格こそ湖国の振興、人材養成に寄与する」と「4年制農大成同盟(1974)」を結成した。この県に対する要請を県民の声にしよう、OBたちは各地の首長、議員に総当りで陳情にまわり全県署名運動にのり出した。



知事に陳情署名の山を提出

署名は、1週間余りで7万を超えた。(知事への陳情およそ3.5万、県議会への請願およそ4万)署名は知事室、議長室に積み上げられた。当時の武村知事は、「よう集めたな」と打たれながらも「大学は国、高校は県」と教育分業論でこれを拒んだ。県議会はこれを全会で採

択した。これは、市民運動からの県立大学設置への最初の一石ではなかったか。それにしてもOB連中の農業自覚と母校愛は半端でなかった。(Q記)